

- 1 派遣期日 令和元年11月16日（土）
- 2 研修先 学校名 東京学芸大学附属竹早中学校
所在地 東京都文京区小石川4-2-1
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~takechu/>

3 研修内容

(1) 視察校における研究の取り組み

研究主題：学びを深める場をつくる ～「手立て」に焦点を当てて～

東京学芸大学附属竹早中学校では、上記の研究主題で研究に取り組んでいる。具体的には、子どもが「学びを深める場をつくる」ために、「学びを深める場」を、どのような手立てでつくるのかという問いを実践において追究することである。そして、以下のめざす子ども像を設定している。

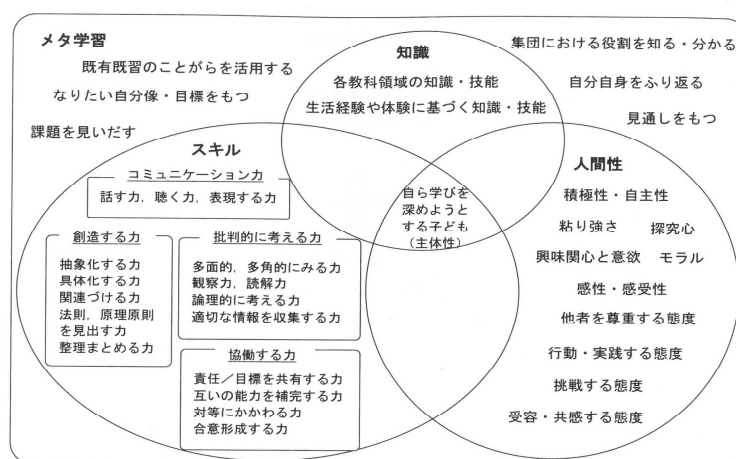
自ら学びを深めようとする子ども

自分（集団）の願いに基づき、他者や事象と関わりながら、既知、既習のことがらを生かして、新しい知識や考え方を見出し、活用しようとする子ども。

上記のめざす子ども像に対し研究課題は次の二つに整理している。

一つ目は、実践において、「学びを深める場をつくる」ために、どのような手立てを講じる必要があるのかを、幼小中連携の視点を入れながら明らかにすることである。

二つ目は、「自ら学びを深めようとする子ども」を育てるのに必要な汎用的な力を明らかにすることである。さらに、「学びを深める場をつくる視点」として、右の図に整理した。



学びを深める場をつくる視点

として、右の図に整理した。「メタ学習」とは、「どのように省察し、どのように適応するか」という点に関わるものであり、いわば、「学び方の学習」である。具体的には、目的に応じて学習や行動を調整することに関わる「メタ認知」や、自らの学びについて学んだり、努力を促したりする「成長的思考態度」を挙げている。また、他の三つの次元を包括し、「知識」、「スキル」、「人間性」をコントロールする役割もあるとしている。

これらの視点を受け、具体的な手立てとしては、ホワイトボードの活用を通してコミュニケーション力を高めたり、グループによる意見交換・発表などを通して、他者を受容することや共感力を高めたりすることなどが挙げられる。また、課題発見の場面におけるICTの活用や写真・映像・新聞資料などの活用を通して、批判的に考える力を高めることも含まれている。

(2) 授業実践の例

①第3学年道徳科「こうのとりのゆりかご」

本時は通称「赤ちゃんポスト」と呼ばれる、「こうのとりのゆりかご」の設置の是非について、賛成か反対か、どちらかを自分で選択し、それぞれの立場から意見を発表すると

いう実践だった。

この実践では、人間尊重の精神の在り方について、「モラルジレンマ」という「学びを深める場」を設定して、自己の内面に迫り、他者との議論を通して考えを深めることをねらいとしていた。

生徒は「このとりのゆりかご」の設置について、賛成と反対のそれぞれの立場から自分の意見をしっかりと発表していた。事前に資料を配付し、生徒が目を通していたこともあり、それぞれが根拠をもって自分の意見をもつことができていた。中には、児童虐待や生活保護の件数を調べ、その数字を根拠として自分の意見に取り入れた生徒も見られた。

また、担任ではない教師が授業を行い、学校全体で道徳に取り組むという体制が整っていることも優れていると感じた。

②第3学年社会科「経済単元で扱う水俣の授業 ～労働組合はどう向き合ったか～」

水俣病については、歴史学習で取り上げられることがこれまでは多かったが、今回は経済の単元で取り上げられるということで、興味深く参観した。

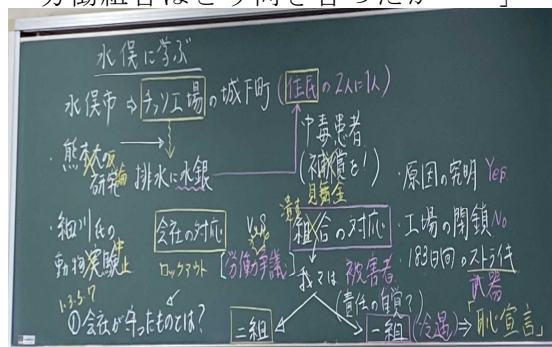
以下の三点について、参考となった。

一つ目は、ICTの有効な活用である。具体的には、水俣病が発生した当時の映像や写真資料を提示し、生徒がしっかりと課題をつかむことができるように工夫していた点である。書画カメラやタブレット端末、DVDを活用して、生徒の視覚に訴える手立てが参考となった。

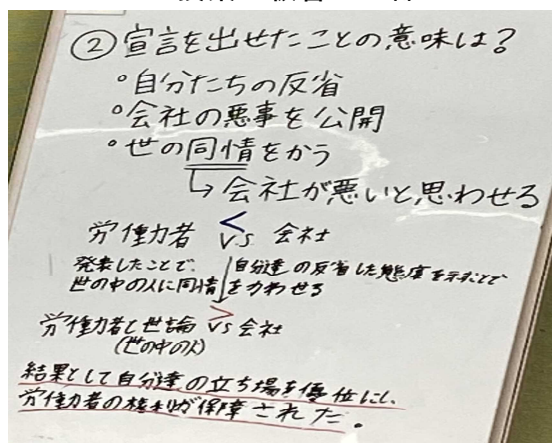
二つ目は、分かりやすい板書構成である。具体的には、板書する内容を絞り込み、生徒にとって必要な情報が、色も工夫しながらまとめられていて、改めて板書の重要さが理解できた。本時のねらいを一目できちんとつかむことができる板書構成が参考となった。

三つ目は、学びの可視化ができるホワイトボードの活用である。具体的には、グループの意見を記入する場面において、教師が各グループを机間指導し、本時のねらいに即した意見に誘導していた点である。「どうしてそう思った?」、「なぜこの意見になったの?」などと、生徒の思考を深めさせる問いかけを教師が行うことで、グループの考えがより深まっていく姿がとても参考になった。

最後に、グループごとにホワイトボードをもとに発表を行う場面では、ホワイトボードを教室の前に掲示するのではなく、タブレット端末で撮影して大型モニターに映し出すという手法を用いていた。この方法だと、今回の授業のように、大型のホワイトボードを使用した場合でも全ての班を提示することができ、とても便利だと感じた。



授業の板書の一部



生徒が書いたホワイトボード

4 感想

(1) 学びを深める場の設定

道徳科の授業では、「賛成」、「反対」の自分の立場をはっきりとさせて意見を述べることの大切さを感じた。自分の授業でも、「考え、議論する道徳」を常に意識し、自分の立場を明確にして、根拠をもって意見を発表できるようにしたい。

(2) 手立ての設定

社会科の授業では、「会社の立場」、「労働組合の立場」のいずれかを教師が設定し、それぞれの立場で話し合うことで、グループでの意見交換がより活発になっていた。普段の授業でもグループの話し合い活動の取り組み方について難しさを感じていたので、今後は、教師がきちんとした手立てを設定してから話し合うことに取り組んでいきたい。